

● 100万人参観者運動を!

'83年6月来館者数	3,369名
通算1カ月平均来館者数	4,267名
当月1日平均来館者数	129名
通算来館者数	362,686名

福竜丸だより

— 都立・第五福竜丸展示館ニュース —

(財) 第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2
都立・第五福竜丸展示館内
電話 (521) 8494

広がってゆく
福竜丸平和の輪

▼展示館前に植えられた紫陽花の花も虹色の色どりをそえ、六月の雨にしっかりとぬれていました。今年の梅雨は、降る雨もはげしいが、晴れ間も時に見せる男性型の梅雨だとか。

▼六月二四日、東建従の加藤さん三井さん、鶴貝さんらとともに、二〇名のお母さんたちが展示館を訪問。お母さんたちは、組合の一つである「主婦の会」のメンバーで、月一回会合を開いています。この会合の中で、建設的な意見を出しあって福竜丸の見学を決めたとか。初めて展示館を訪れる方も多く、熱心に館内を見学。七月末に来日するベラウの友好訪問団との交流も予定しているとのこと。

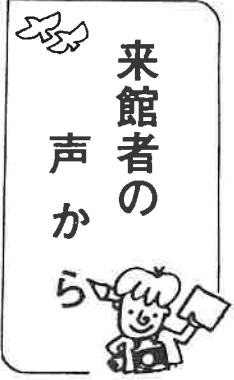
▼梅雨時にも、日曜日になると多くの人が見えられ、先月の十九日は四二七名の見学者があり。見学者の中にはなじみの子どももいて来る度に新しい友人を連れて、「ビデオを見せて」と口を揃えま

す。「アニメ・ピカドン」、にんげんをかえせ」などに人気が集まり、一日五、六回上映。「ピカドン」をはじめ一五本のビデオテープは先月たよりに寄稿いただいた協会賛助会員、吉村道典氏から好意的に寄贈していただいたものです。しかし何度も使用しているテープはいたみがはげしく、保管の手立てを考えていたところ、テープのダビングを家でやりましょうという願ってもないうれしい声がかかりました。この方は前にも展示館に見えられた方で新木場の製材所に勤めている金澤さん。さっそく好意に甘えてテープ数本をダビングしていただきました。

▼「ウルトラアイの『錆』見ましたよ」と見学者の声。展示館の外壁の特殊鋼をNHKが取材、六月二〇日、番組の中で数分間放映された反響でした。

▼五八年度第一期展示替が、六月いっぱい行われ、完成しました。今回は「水爆・その影響力と破壊」を中心に四つのジャンルで構成され、二十枚ほどの組写真、パネルが大きな板壁に展示されるといふ大がかりなものとなりました。

▼みんなの力を合わせて支えてき



た福竜丸も老朽化がはげしいことがわかり、一日も早く抜本的な措置がとられることを願ってやみません。福竜丸が、元気な姿にもどるように、多くの人々に協力を広く呼びかけていきたいと考えています。

私はビキニは、さんごしょうのことしか知りませんでした。それが、それ以外にも実験などにつかわれた島があったことを知っておどろきました。

上田佳子

核兵器をつくられている人にも被害があったり、その放射能を処理する方法もまだみつかっていないし、なんのために核兵器をつくるのかわかりません。もうこれ以上核兵器をつくらせたり戦争をしてはいけないと思いました。

小西秀美

▼福竜丸を通して、人と人の輪が広がっていくことは嬉しいことです。この輪がもっと広がって平和の大きな輪がつくられるように。

(も)

絶する世界。半径一五〇キロメートルのきのこ雲。東京から静岡・清水までどれだけの間が死ぬだろう。少なくとも東京に住む僕は一瞬にして。そう、ほんのまばたきの間もなく存在すべてがほんのひとかけらの骨さえ残さずきれいになくなってしまう。どんな光景か、想像するのは不可能。すべてが無くなったゼロの世界。僕だけではなくすべての人々、僕の子どもたち、僕の愛するこの祖国のために、たたかうぞ!

豊大平和委 谷口昌也

北海道松前町の桜の園を見つめ国の未来を背負う子どもたちのことを考え、この第五福竜丸を見て決意あらたに核廃絶をねがう。

浅利政俊

軍拡でもうけるのは誰か

松井康浩

わたしたちが、第五福竜丸を保存し、展示して平和運動の一端を担っているのは、再び被爆犠牲者を出さないように、さらに進んで核兵器を廃絶して、広島・長崎の市民のような被爆犠牲者を出さないようにという念願によるものである。

核兵器は、それが如何に小型化しても大量殺人を目的とするものであることにかわりない。原子爆弾の使用が戦時国際法に違反して違法不法なものであることは、すでに裁判所によっても判断をもって明らかにされているところである。

原爆の非人道性、残虐性は、長い間の原水爆禁止運動、被爆者援護法制定運動などともあいまって、かなり広く知られていると思われる。にもかかわらず、国の権力を掌握している人達には、まだその認識に欠けるところがあるのか、核軍拡の勢いはいっこうに衰えな

い。日本共産党が、米・ソ首脳に書簡を送って核軍縮努力を要求したのは時宜に合った行動といえよう。

核兵器は人殺し器具の親玉であるから、親玉の故にまっ先に廃絶さるべきものであることに違いない。しかし、より根本的には、この文明社会において、最も野蛮である人殺しを公然と行う戦争そのものを廃絶しなければならぬのである。「武力による威嚇」を重要な外交手段とする思想は、暴力団の思想と同じであり、最も非文明的といえよう。

勢力均衡による平和論の破綻は、今日の軍拡競争の果てしない連続という事実によって証明されている。真の平和論は、戦争原因の解明とその除去の方法論の確立によって形成されるべきであろう。

国を代表する者が、国の利益のために戦争を開始する決意をしたという場合、その国の利益とは具

体的に何を指すのであろうか。戦場で命の奪い合いをしている兵士は敵味方ともに勤労者と農民である。その戦いによって誰が利益を得るのであろうか。七月二六日のポツダム宣言を、八月一日に受諾したという遅延によって広島のみならず長崎までも被爆した。その間政府首脳によって論ぜられていたのは国民の安全とはかわりない「国体」をどうするかであった。

戦争の脅威をふりまき、軍拡に狂奔する政府が、福祉や教育の予算を削って獲得した軍事予算は、「死の商人」に支払われ、これを肥らせている。本年の正月、NHKが放映した死の商人のパーティーについて、その記者は、かつてはカメラを避けていたこの人達が、今やカメラの前に堂々と姿をみせる変化に驚いていた。緊急かつ適切な対応が大事であろう。

(弁護士・日本民主法律家協会 代表理事・平和協会監事)

痛みがはげしい福竜丸 本格的な修理にかかる時

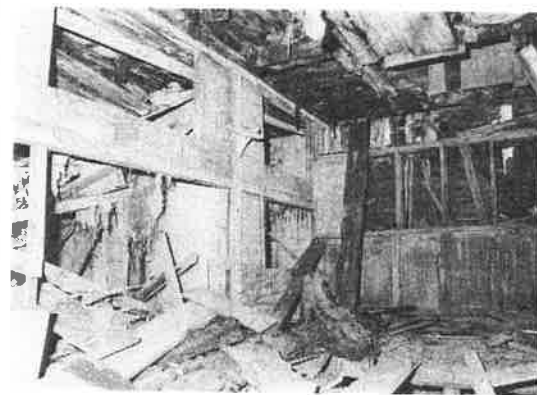
昭和二年、和歌山県の古座造船所で建造された福竜丸は今年で三六年目を迎えました。木で造られた船はもう木造船の限界を越え、船体のいたみもはげしく、このままでは、いつ突然崩れ落ちるか分からない危険性があるということ、大工さんを含む関係者の船体調査によって判明いたしました。(以下、経過について)

五月下旬、船体の調査を関係者に依頼、その結果痛みが相当激しいことが判断。もっとも危険な箇所である船首部分の沈降を防ぐ方法として、船首を支える土台を補強する、船首を太いワイヤーで支柱から吊り上げる、船首前方にすえられているウインチ(アンカーの鎖をまきあげるもの)を取りはずすの三点の緊急措置を講じ、その工事費用だけでも五〇万かかるとのこと。

六月に開かれた松本楼での展示館開設七周年祝賀会の席で、船内を写した写真と腐った材木を参加

● 専門家による科学的調査

七月四日、休館日を利用して専門家に調査にあたっては、東大工学部の船舶力学の竹鼻三雄教授、同教養学部の和船技術史の小佐田哲男助教授、国立文化財研究所の保存修復の岩崎友吉の三氏。平和協会から三宅泰雄会長、猿橋勝子理事、三井周二、加藤庄太郎氏、東京都から南部公園緑地事務所の塩野課長、長谷川管理課員もたちあい、二時間余船内をくまなく調査し科学的検討を加えた。とくに船首部分を数本のジャッキでゆっくりあげていく応急修理と支えの補強と共に、船内に木枠、太いパイプ等を張りがちり固める本格的修理の必要性などが強調され、至急に報告書を作り都に要請していくことになった。都の代表からも一刻も早く着工できるように尽力する旨決意がのべられた。



者に拝見していただき、福竜丸の永久保存を訴えた。

南部公園緑地事務所の資料課長をはじめ職員にも調査を依頼。平和協会として、船体の応急修理についての要請書をつくり申請。これらのことにより、福竜丸を永久に保存していくため、プラスチック補てん剤、シリコンの注入など内部の補強という本格的な工事が必要との意見もでて、さっそく船体構造、設計の専門家による調査が始まった。

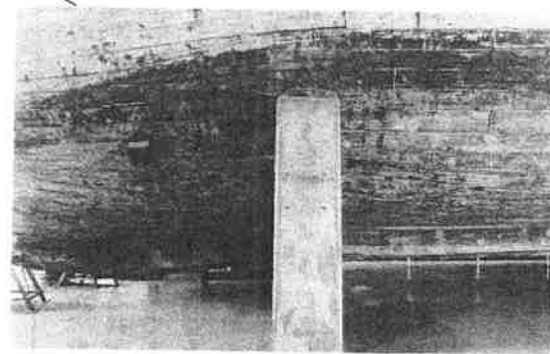
① 船首

木と木の間が大きくあき、ひび割れが目立つ。上からみると板がばらばらに不揃いになっている様子がかがえる。(船首にそなえられているウインチの重量が相当負担になっている)



② 龍骨、側壁

船の自重、船を支える土台が少ないことから、船首部分のおちこみが極度にはげしい。龍骨がコンクリートの土台のところから曲がっていることがよくわかる。(写真提供・桐生広人氏)



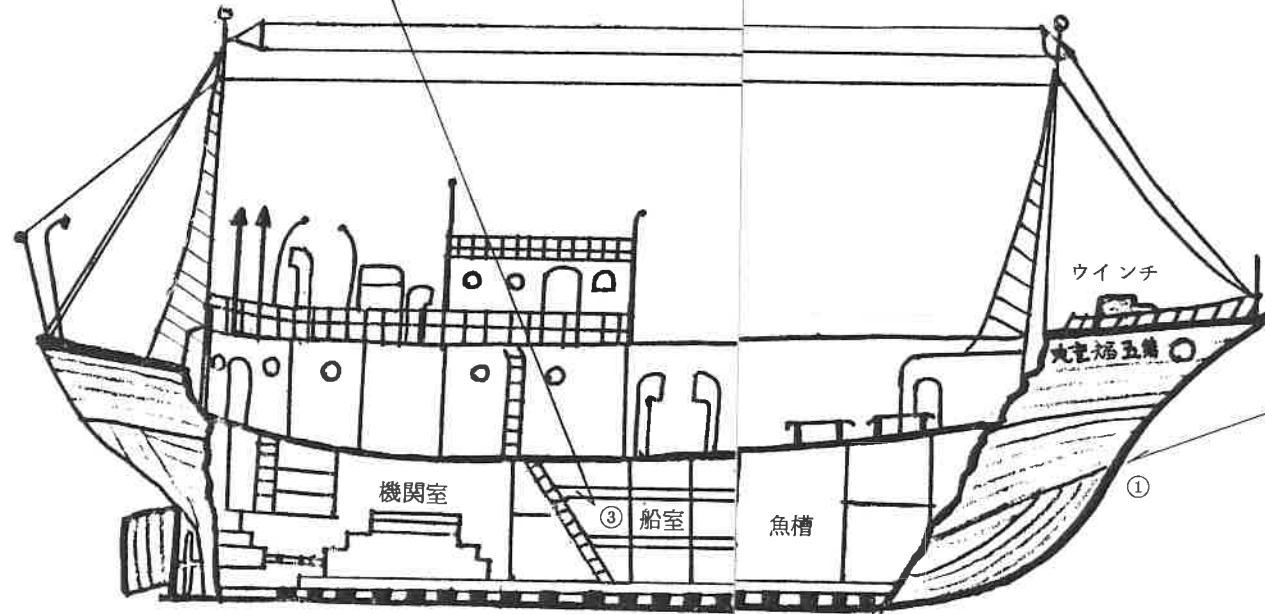
← 船首

私たちの手で

六月中旬、和歌山より一本の電話がはいった。「船をつくった私たちが、自分たちの手で船を修理しますよ」という嬉しい申し入れだった。この申し入れは三六年前第七事代丸(第五福竜丸の前身)を造った船大工さんからであった。先月の十二日、福竜丸の故郷より船を設計した南藤藤夫氏をはじめ船大工さんらが、東京見物を兼ねて展示館へ訪ずれた。まるで我が子を想う感慨深い気持ちで第五福竜丸を見つめていた。船大工さんたちは、七月からでも手弁当で修理にかかりたいと意欲を燃やしていた。

③ 船室の中

天井は朽ち果て、羽目板ははずれ今にも崩れ落ちようとしている。まさに幽霊船のように船内は荒廃しきっている。



—— 私の見解 ——

抜本的な措置を!

館内に保存されているので、風雨にさらされないものの、海から上がって9年。造られてから36年も経っている木造船、第五福竜丸は木の生命である繊維質が完全に風化しぼろぼろになっている。龍骨部分をはじめ、側壁、甲板も限界にきている。外から見えない船槽内の腐食はさらに激しく、触れればくずれ落ちる状況です。一刻も早い補修と永久保存のための、抜本的な措置が必要です。

(東建従 加藤庄太郎・三井 周二氏)

